

柑橘界のキング 唯一無二の存在感『晩白柚』



重量世界の果実王

八代地域特産の晩白柚は、熊本県を代表する贈答用の特産果樹として人気を博しており、八代の果樹経営の柱として、商品価値の高い農産物に位置付けられています。

現在、氷川町および八代市においてハウス・露地物共に山沿いを中心に栽培が盛んで、トマト・イチゴと並んで八代地域を代表する歴史のある農産物となっています。

全国の晩白柚生産量は約千トで、その内の約9割が八代地域で占められており、名実共に全国唯一の晩白柚産地です。

晩白柚は、東南アジアのマレー半島が原産地です。昭和7年に熊本県果樹試験場が導入し、試験研究を経て、昭和27年に八代地方へ導入されました。八代の風土が栽培に適していることが分かり、栽培技術の改良を重ねて、八代の代表的な特産品となりました。

名前は、台湾の在来種「白柚」より熟期が遅い(晩生)ため、「晩白柚」と命名されました。

果実の特徴である重さは、ハウス物で平均約1・8キ、露地物では平均約1・5キに達し、平成27年9月には、八代農業高校で栽培された晩白柚が柑橘類重量世界一(4890g)として、ギネス記録を更新しました。



氷川町内の生産状況

生産農家数 62戸
生産面積 約18ヘクタール
生産量 約200トン
※平成26年度氷川町農業生産額調査参照。

特長

- ・楽しみ方の3本柱
- ①「観て楽しむ。」
- ②「香って楽しむ。」
- ③「食べて楽しむ。」



・置くだけでアロマ
晩白柚は日持ちする果物です。置いたままでも、2週間から1カ月は平気です。置いているだけで室内には甘い芳香が漂うので、まさに「置くだけでアロマ」が楽しめます。

・果皮で楽しもう
晩白柚は、捨てることなく、全てで楽しめます。分厚い果皮は、砂糖漬けにしてもよし、お風呂に浮かべてもよし。



新たなチャレンジ 香港輸出

平成27年1月には、特長である色・形・大きさから、春節(旧暦の正月)の「大きな福をもたらす縁起物」として香港への輸出に挑戦しました。イオン香港13店舗で販売が行われ、現地では初めて見る晩白柚に感嘆の声



が上がりました。出荷した1800玉はほぼ完売し、大好評を得ました。昨年の大好評を受け、今年も昨年の倍近い3千玉が輸出され、1月15日には八代市役所において出発式も行われました。

八代港からの農産物輸出は初めてで、今後の輸出拡大に向けた取り組みも期待されます。

現地香港では、1月31日に藤本町長によるトップセールスも行われ、応援に駆けつけたくまモンの人気も相まって昨年以上の成果が得られました。

※2月16日現在消化率95・5%

国内需要もますます拡大

海外での人気も高まりつつある晩白柚は、国内でも贈答品として変わらぬ人気があります。

1月9・10日にはイオンモール熊本において果実品評会が行われました。

これは、生産者の栽培技術の向上などを目的にされており、ハウス晩白柚の露地晩白柚の部、ジャンボの部において審査が行われ、氷川町からは、露地晩白柚の部で久保田時雄さん(笹尾)が金賞を獲得されました。

同時に行われた試食販売会では「甘さと酸味のバランスが良くおいしい」「やわらかい柑橘の香りが好き」「親戚に送るととても喜ばれる」などの声が聞かれ、中には大きさに驚いた人が写真に撮るといった場面も見られました。

また、2月13・14日には、東京都江戸川区のイオン葛西店においても晩白柚フェアが行われました。

イベントでは、晩白柚の紹介をはじめ、生果や酵素によるむき身の試食会、くまモンイベントやクイズ大会が行われました。関東圏での認知度も年々増し、イベント参加者の半数近い人が晩白柚を知っていました。香り、味についても好意的な意見が多く聞かれました。

今後も国内外問わず、八代地域にしたい、オニリーワン果実としての晩白柚の活躍が期待されます。

